



- ている。 【全館児童書冊数 117,944 冊、全蔵書冊 370,261 冊の約 32%。5 年間で 13,106 冊増】
- ・赤ちゃんから小学生までを対象としたえほんの時間やおはなし会等の子ども向け行事を定期的実施している。 【定例行事数は5年間で3件から6件に、年間実施回数は152回で76回増】
 - ・保育所（園） 幼稚園、学校、公民館、児童館など関係機関等に対して、資料提供や出前おはなし会などを実施している。また、本の読み聞かせやブックトークなどの要望に積極的に対応している。
 - ・若者向けの小説や進路、心と体の本などを集めたティーンズコーナーを設けて、中学生や高校生の読書環境の整備に努めている。

課題

- ・幼稚園や小学校などからの長期貸出要求が重複する場合があります、十分な資料が必要である。
- ・市内 28 校中 22 校の小学校に自動車文庫が巡回しているが、今後も市内全域の子どもが図書館サービスを利用しやすい環境を整えていくことが課題である（アンケート P2/小5 問 11, 13, 14 より）
- ・図書館が行っている子ども向けサービスでは、学校に対しての読書活動支援など新規サービスは認知度が低いため PR が課題である。

（2）官民協働（パートナーシップ）による子どもの読書活動の推進

【 成果 】

- ・読書ボランティアの協力を得ながら、21 校の小学校では子どもが読書の楽しさにふれる機会を持っている。また、図書館では子どものための定例行事が実施されており、読書への関心が高められている。
- ・図書館司書、こども課・健康増進課職員と読み聞かせボランティアが連携してブックスタート を実施しており、年間約 1,000 人が対象となっている。
- ・読み聞かせボランティア交流会を実施して、ボランティアグループ間での交流を深めるとともに、連携を深め、学び合い、情報交換の場としている。

課題

- ・ボランティアの活動形態、学校や地域など活動の場、役割など、ボランティアと学校や関係団体との連携方法、よりよい活動のあり方の研究が課題である。

ブックトーク

本への興味を引き出すようにして工夫を凝らして本の紹介を行うこと。

ブックスタート

乳幼児が本との出会いを通し、親子のふれあいを深めることをめざした事業。津山市では、3・4か月児健診時にブックスタートの説明とともに、絵本リスト「パパママよんで！」を配布。また続編として、3歳児健診時にも幼児向け絵本リストを配布している。